
春の音

さくらいろは

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春の音

【Nコード】

N8800B

【作者名】

さくら いろは

【あらすじ】

春・卒業シーズンの心模様。春夏秋冬と短編で書いていくつもりです。その第一弾。

「いってきます。」

元気な私の声が家に響いた。家族に送り出され、静かに戸を閉めて歩きだす。

いつもより早い時間。気持ちがあわついで、早くに出てきてしまった。前を見ると、見慣れた道が続いている。今日でこの道ともお別れだ。

卒業。その言葉が重く、深く、心にのしかかる。

今まで生きてきた、長く険しく、それでも楽しかった日々を思い出すと、何かが私の後ろ髪を引く。

これから進む、見えない道を想像すると、暗くて巨大な闇が、私の心を覆い隠す。

それでも、こんなに空は晴れていて

それでも、こんなに心は晴れている

歩きながら、空を見上げる。私は私に言い聞かせる。

不安ばかり持っているわけではないのだ、と。でも、希望ばかり持っているわけではないのだ、と。それでも私は進むのだ、と。

嬉しいわけではない。でも、嬉しくないわけでもない。

寂しいわけではない。でも、寂しくないわけでもない。

私はこのまま進んでいいのだろうか、と迷うけれど、私はここで立ち止まっていいのだろうか、とも迷う。不思議な気持ち。矛盾ばかりで、よく分からない葛藤ばかり。それでも現実は、進むしかない。いや、立ち止まることはできるが、いつまでも立ち止まっていたようとは思わない。立ち止まるのは、いつでもできるから。だから今は、まだ前に進もう。そう決心した。

遠くに生徒の影が見えた。そろそろ学校も近い。私の家は学校から少し遠目だから、いつもは自転車通学。だけど、今日は、今日だ

けは、歩いてこの道を通ろうと決めていた。

「早いね」

後ろから自転車の音が近づいてくる。振り替えると、クラスメイ
トが自転車で近づいて来る所だった。

「そっちもね」

そう言い返すと、彼女は明るく笑いながら通り過ぎて行った。

「学校で待つてるから」

捨て台詞を吐いて。今日はクラス全員が集まるの、だいぶ早い
かも。

そこで、ふと、違和感を感じた。自然に足が止まった。見慣れた
道なのに、どこか違うような気がする。

「なんだろ……いつもの道なのに。」

もやもやしたまま、歩き出す。と、また足を止める。

「やっぱり、何か違う。」

再度歩き出し、辺りを見渡しながら歩く。

その時、鳥の声が聞こえた。楽しげに、歌うように、鳴いている。
無意識に、鳥の姿を探した。鳥は、前方の木の上にいた。たくさ
んの花をつえた木。綺麗な薄い桃色の花の中に、薄い緑色の鳥の姿
が見え隠れしている。

ああ、そうか。

「春……なんだ。」

見慣れない花が咲き誇る中、私は一人、小さく呟いた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8800b/>

春の音

2010年10月13日17時28分発行